

内田 奈保子 さん

Naoko Uchida

主婦

1981年、東京都生まれ。2004年、生活科学部生活環境学科卒。同学科助手を経て、日本衣料管理協会勤務。結婚、出産を機に退職。在学中に教員免許状(中高家庭科)、衣料管理士の資格を取得



姉と着た母お手製のワンピース 娘たちにも作ってあげたい

私の出身高校、順心女子学園(現・広尾学園)は初代校長が実践女子学園の創立者、下田歌子先生でした。そうしたつながりを感じて実践女子大学へ。今でも思い出すのは、オーブンキャンパスの時、助手の方の白衣姿が格好良くて見とれたことです。「私も、あんな素敵な女性になりたい」と思いました。大学では繊維素材について学び、洗濯やシミ抜きは得意です。母が裁縫が好きで、自宅には布がたくさんあり、4歳年上の姉とおそろいの白の水玉模様のワンピースを縫ってくれたり、かばんを作ってくれたことが、自分の原点にあるのかもしれない。

4年生の時に研究室の鎌田佳伸先生から「大学卒業後も大学に残り、助手をしないか」と声をかけていただきました。高校生時代に憧れた「白衣のお姉さん」を自分がやることになり、とても不思議な感じでした。8年前に結婚し、現在は6歳を筆頭に3歳、1歳と娘ばかり3人の子育てに追われています。娘たちがもう少し大きくなったら、母が縫ってくれたように、おそろいの水玉模様のワンピースを作ってあげたい。そして、子育てが一段落したら、これまでの経験を生かす形で、繊維関係の仕事ができればいいなあ、と思っています。



助手時代の内田さん(中央、2004年撮影)。高校生時代に憧れた白衣姿で3年間を過ごした

今回は、子育て真っただ中の内田奈保子さん。実践女子学園は男女共同参画の推進を学園の方針として掲げていますが、家事や育児を軽視しているわけではありません。その逆です。とりわけ子育ては、次世代を育成するという社会の最重要課題だからこそ、パパもしっかり子育てを担える社会にしたい。そして、いずれはこれまでの経験を生かした仕事に復帰したいというママの望みがかなう社会にしたいですね。



男女共同参画推進担当理事
人間社会学部長
広井多鶴子教授